



●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

こんにちは
中山間地域研究
センターです。

養老孟司先生の講演会を開催

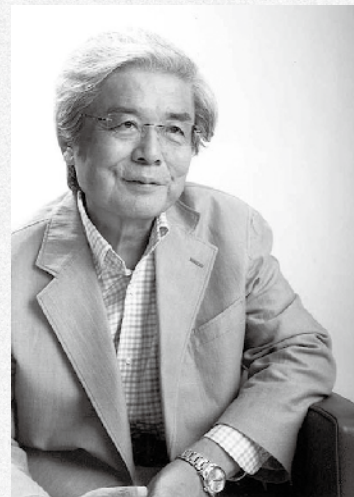
●中山間地域研究センター
☎76-2025



<https://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

東京大学名誉教授の養老孟司先生には、平成16年から中山間地域研究センターの特別顧問に就任いただいています。先生は、かねてより20世紀における行き過ぎた都市化を危惧し、自然との折り合いをつけて生きる生活の重要性を説き、さらに、昆虫の研究を通して、現場から学ぶ「下から」の研究が大切だと指摘しておられました。

先生のご経験をふまえて、学ぶことの大切さ、生涯にわたり好奇心・探究心を持ち続けることのすばらしさをお話いただきます。



- 講演テーマ 中山間地域の活性化のヒント～探究心を持ち続けることの大切さ～
- 開催日時 令和3年10月16日(土) 10時～11時30分
- 場所 島根県中山間地域研究センター2階 大会議室
- 定員 50人(参加無料・要事前申込)
- 申込 下記の連絡先に電話(平日9時～17時。9月13日より受付開始)

養老孟司先生のプロフィール

1937年 神奈川県鎌倉市生まれ。1962年 東京大学医学部卒業。解剖学を専攻。
1995年 東京大学医学部教授を退官。東京大学名誉教授。
2004年 島根県中山間地域研究センター特別顧問に就任。
著書に「唯脳論」(青土社)「無思想の発見」(筑摩書房)「バカの壁」「死の壁」「超バカの壁」(新潮社)など多数。
昆虫好きで「私の脳はなぜ虫が好きか?」「養老孟司のデジタル昆虫図鑑」(日経BP社)など昆虫に関する書籍も多い。

■問合せ 企画振興スタッフ ☎76-3858

こんにちは。7月の一カ月間、松江市立病院から研修に来させていただいた研修医の尾崎晃太郎です。短い間でしたが、皆さんお世話になりました。

私は出雲市出身で、大学が鳥取大学なので、人生のほとんどを山陰で過ごしてきましたが、飯南に来たのは私の記憶では初めてでした(両親によると、小さい頃にステーキを食べに来たことがあるそうです笑。同じ山陰といえど、ここまで雰囲気の違いものかと驚かされる毎日でした。患者さん、医療スタッフ、どんな方と接しても、皆さんの笑顔や温かさが絶えないのです。そこに住んでいる人たちの雰囲気というのは一言で表せるものではないとは思いますが、少なくとも自分は「とてもいいところだな」と感じました。

また、学ぶところも多くありました。飯南病院の立派な先生方からはもちろん、患者さんからも多くのことを学ばせていただきました。大きな病院と違って、「はじめまして」から

飯南 便利
お世話に
なりました
一カ月間



松江市立病院 研修医2年
尾崎晃太郎

「退院」、「その後の外来」まで経験させていただけるとは、研修医には滅多にありません。先生方の手厚いサポートのおかげです。何回も患者さんのベッドの横に行つてはたくさんのお話を伺い、松江の病院では気付かなかったことにも気付けたのではないかと思います。そんな中で、皆さんの笑顔が見られた時には、言葉にできない喜びも味わせていただきました。

私は来年度以降、外科医として山陰で働くことを考えています。もちろん健康が一番ですが、もしかするとどこかの病院で働いていることがあるかもしれません。その時も変わらず、患者さんのことを第一に考えて働く医師でありたいと考えています。

この飯南で多くを学べ、皆さんには感謝しかありません。熱中症や新型コロナウイルスが猛威を振るう夏ですが、どうか健康にお過ごしください。ありがとうございました。

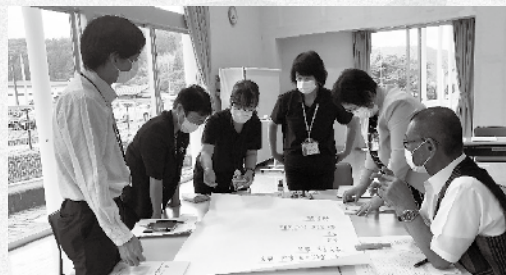
保健福祉 便利 センター

皆さんは日々の食事の中で、「塩分」を気にすることがありますか?

塩分を取りすぎると、血圧が上がったり、血管を痛めたり、脳血管疾患を引き起こしたりします。重症化する前に、できることはたくさんあります。

新型コロナウイルス感染症のために私たちの生活は大きく変化しています。新しい生活様式の中、改めて健康を意識し、まず、自分、家族でできることを進めていきましょう。

飯南町健康なまちづくり推進協議会総会(6月30日)。委員の皆さんと「適塩」をテーマに意見交換



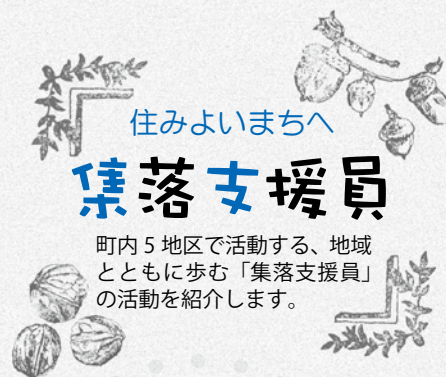
「減塩」から「適塩」に 美味しく 適塩生活

個人でできること

- 醤油をかけすぎない工夫
- 汁物を減らす
- ラーメンの汁は残す
- 食事量を減らす
- 間食の量を決める
- 野菜を食べる など

職場などの組織でできること

- 健康と塩分摂取量の啓発
 - ・医療機関からの発信(CATVなど)
 - ・「適塩の日」を設ける
- 職場に血圧計の設置
- 低年齢からの適塩教育 など



町内5地区で活動する、地域とともに歩む「集落支援員」の活動を紹介します。

来島地区集落支援員の
朽木です!

にぎやかな声が響く「来島交流センター」

来島地区では、地域運営組織として「来島ビジョン推進会議」を立ち上げ、地域づくりに取り組んでいます。その中の交流・企画部門「みんなの来島プロジェクト」では、地域内の若者たちが新しい事業を企画し、実行に移しています。6月に来島交流センターで開催した「ハッピーフラワーマーケット」では、町外からお花屋さんやクレープ屋さん、珈琲屋さんなどを招き、多くの来場者でにぎわいました。新しい発想で、楽しそうなイベントを行うと「こんなにも来場者が訪れるのか」と感じました。やはり若い人たちの感性はすごいですね。

7月は若者交流イベント、8月は音楽イベントと、毎月のように来島の魅力を感じられるイベントを開催します。ぜひ参加してみてください。



お花が主役のハッピーフラワーマーケット

また、来島地区では、作野教授(島根大学)の指導で「来島地域づくりミーティング」を開催しています。「集落実態調査」で浮き彫りになった課題の解決方法などを話し合い、地域の合意形成を図り、未来ビジョン(地区計画)を立案するものです。参加した人が「参加してよかった」「いい経験になった」と思える会になるよう、工夫して進めていきます。

最後に、7月12日の豪雨での避難指示により、来島交流センターにも多くの人が避難されました。避難所では近所の皆さんが顔を合わせ、お互いの無事を確認し、安心しておられました。来島地区の防災避難拠点として、今後も安心安全な施設運営を行ってまいります。